

高千穂検定 橋本凜さん(10) 最年少合格

観光こども博士に認定



高千穂検定に最年少で合格し、高千穂観光こども博士に認定された橋本凜さん(左)。右は、高千穂町観光協会の飯干淳志会長

高千穂町内を観光案内できる程度の知識レベル(同町観光協会主催)に、凜さん(10)が最年少で、橋本さんを新設した「高千穂観光こども博士」の第1号に認定。7日に、認定証の授与式を同校で行った。

同検定は、同観光協会が高千穂の魅力伝える人材を育成しようと、2007年から年2回実施。同協会発行のテキストをもとに、高千穂の神話・文化・観光施設などに関する問いが出题される。試験(90分)は選択式問題などがあり、100点満点中70点以上で合格となる。

歴史や神話が好きな橋本さんは、3年生のオーブンスクールで同観光協会職員から検定の話を聞いて受検を始めた。テキストはもちろん、日本書紀や古事記などの本を買ってもらったり、学校の図書室で借りたりしながら歴史を学んだという。

25回の同検定を受け、3回目の受検で合格した。橋本さんの合格を受けて同観光協会は、もっと幅広い世代に受検してもらおうと、小学生を対象にした高千穂観光こども博士の認定制度を新設した。

7日の始業式後、飯干淳志会長が高千穂小の全校児童に「自分たちのふるさとを大好きになって、高千穂の魅力を世界に広める人になってもらえたらうれしい」とあいさつ。橋本さんに認定証と記念品を手渡した。

橋本さんは合格証書が届いた時、祖父母らに電話するほど合格がうれしかったという。「観光ガイドになって、たくさんの人に高千穂を知ってもらおう手伝いがしたい」と話した。

昨年12月に行われた第